

県立病院・地域診療センター

患者データ共有

共有情報は患者の氏名、生年月日、病歴のほか注射や薬の処方情報、エックス線検査画像を想定。各医療機関で検査データを管理しているシステムから必要な情報をデータセンターに吸い上げる。

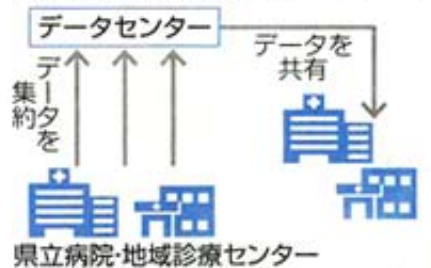
超音波や内視鏡などの検査情報もシステムが整い次第、追加していく。

これらのデータを活用することで、患者の受診先の医師と遠隔地にいる専門医が同時に検査画像などを確認し、診断や治療、転院方針を検討できるようになる。

19年度から

県医療局は2019年度、県立26病院・地域診療センター間で患者情報を共有する「診療情報共有システム」を稼働させる。東日本大震災でカルテが流失し、医療現場で混乱を来した教訓を踏まえ、投薬情報、エックス線検査画像などのデータを二元的に集約して共有。非常事態に備えたバックアップだけでなく、データを専門医による遠隔診断に生かすなど日常の医療水準の向上も期待される。

診療情報共有システムのイメージ



検査の重複も避けられる。県立病院間での患者紹介に関する書類作成などの省力化が見込まれる。

県医療局は東日本大震災時に沿岸の山田、大槌、陸

震災の教訓踏まえ

前高田3病院で紙カルテが流失し、患者も「お薬手帳」が流されたため、現場の医療活動は難航を極めた。このため、病院ごとのデータを管理するバックアップシステムを15年度に構築。18年3月までに被災3病院が本設復旧したことも踏まえ、共有システムへ高度化する運びとなった。

県内では、9医療圏のうち久慈、宮古、釜石、気仙、岩手中部の五つで圏域内の民間医療機関や調剤薬局、介護施設などに県立病院が加わる形でネットワークを構築。患者の同意を得た上で診療情報を共有している。

大槻英毅局長は「データ共有により、病院間で患者の状態に関する適切なやりとりが可能になり、限られた医療資源を有効に使うことができる」と説明。民間機関を含むシステム拡大の可能性については「(未構築の)4圏域の動向も見ながら必要性を検討したい」と話す。

2019年(平成31年)
2月26日
火曜日

発行所
株式会社 岩手日報社
盛岡市内丸3番7号
郵便番号 020-8622
©岩手日報社2019

紙面へのご意見・ご質問、情報提供は…編集、読者センターへ(平日9~17時)
電話 019 (654) 1208
ファクス 019 (653) 8206
dokusya@iwate-np.co.jp

岩手日報ホームページ
https://www.iwate-np.co.jp/

岩手日報

千田工務店だからできる
ゼロエネルギーの暮らし

千田工務店 北上市常盤台四丁目10-78 TEL0197(65)2562

一步一步ともに

29 釜石の男性プロゴルフ挑む



- 4 花巻市 新医大病院へバス
- 13 ご注意 引っ越し難民
- 18 雄星きょうOP戦初登板
- 20 「南部美人」がTシャツに
- 22 遠野市駅舎新設改修工事

今日の紙面